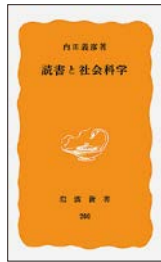




大学院社会文化科学研究科  
人間・社会科学専攻  
先端倫理学領域准教授

中川輝彦(なかがわ てるひこ)

専門分野/社会学  
主な担当授業/医療福祉社会学



『読書と社会科学』  
内田義彦著 岩波書店  
1985年

若い人に  
オススメ!



法学部法学科教授  
大日方信春(おびなた のぶはる)

専門分野/憲法学  
主な担当授業/憲法I  
(基本的人権)



『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』  
岩崎夏海著 ダイアモンド社 2009年

若い人に  
オススメ!

「何をどう学ぶのか」が分かる本  
に生かすのを知ることが  
できます。

タイトルには「社会学」とありますが、多くの学部学生にも、大学院生にもお薦めしたい本です。

## 「何をどう学ぶのか」が分かる本

### 読書によって

本書は、研究とはどのような営みなのかを、読書という行為に焦点を合わせて論じています。本書から、読書、特に学術書を読むことを通じて、何をどのように学ぶのか、学んだことをどのように研究

には、読書、特に学術書を、読むことを通じて、何をどのように学ぶのか、学んだことをどのように研究

## 組織間理論としても 青春ドラマとしても面白い!

説として面白い。ストライクが入らなくなるピッチャーからメンバーが離れそうになる時、「フォアボールを出したくて出すピッチャーはいない」と言う監督や、「ノーバント・ノーボール作戦」など秀逸です。

ひところ話題になった「もしドラ」。ドラッカー『マネジメント』の理論を、甲子園を目指す野球部に、また、ドラッカーを抜きにしても、高校球児の小

専門分野  
ならコレ!

『科学が作られているとき—人類学的考察』  
フルーノ・ラトゥール著  
川崎勝/高田紀代志訳  
産業図書  
1999年

科学という営みが、誰のどのような活動がどのように結びついて成立しているのかを描いています。本書は、おそらく多くの読者の「科学」のイメージを変えることでしょう。ここには、主としていわゆる「理系」の世界が描かれていますが、「文系」の学問分野についても多くを学べると思います。

専門分野  
ならコレ!

『憲法主義』  
南野森/内山奈月著  
PHP研究所  
2014年

AKB48の内山奈月生徒に、九州大学の憲法の先生が講義した講義録。なっきはAKBのコンサートで、憲法48条(AKBだから?)を暗唱してみたことと有名。憲法とは何か、いま問われている立憲主義(本書では「憲法主義」とは何かという憲法理論の根幹を平明に説く、本格的な入門書です。

- 今井伸和/教育学部 ①『銀河鉄道の夜』(宮沢賢治著 新潮社他) 主人公のジヨバンニのように「ほんとうのさいわい」を探すきっかけにしたい。
- ②「人間とは何か—実存的精神療法」(V.E.フランクル著 山田邦男監訳 岡本哲雄/雨宮徹 今井伸和訳 春秋社) 思想家としてのフランクルを全体的に理解できる一冊。
- 緒方信行/教育学部 ①『イザベラ・バードの日本紀行』(イザベラ・バード著 時岡敬子訳 講談社) 明治維新当時、なぜ日本が世界に大きく羽ばたいていったのか、地方はどのような暮らしをしていたのか、なぜ日本は外国人に受け入れられていったのかなどを考える時にお薦めの本。②『高村光雲—木彫七十年(人間の記録)』(高村光雲著 日本図書センター) 明治維新当時、日本が世界に羽ばたいた背景には美術も大きく関わっていた。仏像彫刻関係に特化した彫刻家たちの中で、世界の彫刻界に挑んだ光雲(代表作「老猿」)の生涯を描いた本。
- 國枝春恵/教育学部 ①『キリスト教を問わないおす』(土井健司著 筑摩書房) 日本人の視点でキリスト教を考えることができ、キリスト教史の真の面をどう捉えるかについて書かれている、読みやすい一冊。②『日本の音—世界のなかの日本音楽』(小泉文夫著 平凡社) 日本の音楽をとっても分かりやすく、楽しく解説しており、理解が深まります。
- 武田珠美/教育学部 ①『アフリカの蹄』(帯木逢生著 講談社) 奇抜なストーリーが未知の世界へ誘ってくれる。読書って面白いと気付かされる本。②『科学でひらくコマの世界』(福田靖子著 日本調理科学会監修 建帛社) 主要な作物ではない「コマ」が世界中で昔から食べ継がれてきた理由が分かる。
- 竹中伸夫/教育学部 ①『教育問題はなぜまちがって語られるのか?—わかったつもりからの脱却』(広田照幸/伊藤茂樹著 日本図書センター) 社会学という学問を考える上で避けて通れない構成主義という考え方が、比較的平易な文章で書かれている。②『教育課程改革と教師の専門職性—ナショナルカリキュラムを超えて』(デニス・ロートン著 藤野正章訳 学文社) 教師に求められる専門性とは?教育者にとって必読の書。
- 藤瀬泰司/教育学部 ①『新版論文の教室—レポートから卒論まで』(戸田山和久著 NHK出版) レ

文学の先生から  
アドバイス

## 読書の醍醐味と お薦めの読書法を教えます。

文学部 文学科  
超域言語文学コース教授  
西楨 偉 (にしまき いさむ)  
専門は比較文学。熊本日日新聞  
日曜朝刊読書欄に、2010年秋  
より3カ月に1回のペースで書評  
を執筆。



本を読むことの醍醐味は、自分が今いる場所から飛躍させてくれること。外国にも古代にも空想の世界にも行くことができ、そこで自分の精神を遊ばせることで、自らを客観的に眺められるようになるのです。よくいわれるように文学作品には「解毒作用」があり、別の世界に浸るだけで勇気づけられることがありますよね。言葉

の力はとても強いです。読んだことがそのまま、自分の体験になるような読書をしたいいですね。

読書の世界を広げるにはどうしたらよいか。それには、良い本に出合ったら、そこから「芋づる式」にたどっていけばよいでしょう。小説の場合は、気に入った作品があればその人の全作品に目を向ける。また、筆者がその著作の中で言及している本に手を伸ばしてみる。信頼できる筆者が薦めてくれる本は、広い世界への入り口です。本は関わりの中で読むことが大切なのです。

私のお薦めの読書法をいくつか紹介しましょう。まず、鉛筆を手に読書。傍線を引いたり、コメントを書き込んだりしな

がら読めば、内容把握や次に読む時の助けになります。読書ノートも良いですね。読んだ本から抜粋し、感想を書くことで、要約する能力が身に付きま

す。書いたものを友人に見てもいい、意見を聞くとさらに良い。こういう経験は卒業論文を書くときにも役立ちます。

わが家では家族ゼミなるものを開催しています。例えば『徒然草』を二日二段落ずつ、まずは古文を音読。そして現代語訳を読み、最後にもう一度古文を

読みます。皆さんも仲間と読書会を開いてはいいかがでしょうか。話し合うことで自分の考えも深まります。読書を個人的な孤独な体験ではなく、仲間と共有し高め合うものにしてほしいと思います。

若い人に  
オススメ!



### 『都市空間のなかの文学』

前田愛著 筑摩書房 1992年

「都市空間」の視点から、森鷗外『舞姫』や夏目漱石の『彼岸過迄』など、主に日本の近代文学を鋭く読み解いた評論集。良い作品を読むだけでなく、良い文学批評を読むこともお薦めです。

専門分野  
ならコレ!



### 『日本における外国文学』

島田謹二著 朝日新聞社 1975-76年

比較文学を日本に根付かせた著者による名著。易しい文体と熱い語り口で比較文学の面白さを伝えてくれます。絶版ですが図書館にありますよ。

ポトや論文の書き方に関するエッセンスが簡潔にまとめられている。学生と教員の対話形式の文章は、高校生や大学1年生にも読みやすい。②「新編教える」ということ「大村はま著 筑摩書房」この本を読めば、教えることに対する関心と、教育者としてのプロ意識が高まること間違いなし!

堀畑正臣/教育学部①「下克上の文学」(佐竹昭広著 筑摩書房) 学問の面白さ、視野の広さ、考え方を教えられる本。日本の良質な視点を味わってほしい。②「東西/南北考-いくつもの日本へ」(赤坂憲雄著 岩波書店) 日本は中央集権的ではなく、いくつもの日本が混在していることを民族学的観点から解き明かすなど、大変面白い。

宮瀬美津子/教育学部①「不都合な真実」(アルゴア著 枝廣淳子訳 ランダムハウス講談社) 環境破壊の恐ろしさを物語の多数の資料、写真などをもとに、人類が直面している危機について警告し、対処法を示す。21世紀を担う全ての若者に共通する課題であるので、ぜひ読んでほしい。

岡田行雄/法学部①「この国の失敗の本質」(柳田邦男著 講談社) 15年以上前の本だが、現在もなお日本が真摯に取り組むことを避け続けていく「宿題」を明示。何がこの国の失敗の本質なのかを改めて考えてほしい。②「誤判の構造-日本型刑事裁判の光と影」(横山晃一郎著 日本評論社) 冤罪が生じる構造的な原因を明らかにする名著。日本の刑事司法が、被告人には反省を強いる一方で自らは反省しようとならないのはなぜなのかを考えた。

外川健一/法学部①「大学生になるまきへ-知的空間入門」(中山茂著 岩波書店) 科学技術がいかに人間の社会経済に影響を及ぼしたかを、分かりやすく解説。とっつきやすいが中身は濃い本。②「日本の経済地理学50年」(藤田佳久/阿部和俊編 古今書院) 経済地理学とは何か。その答えを探すためにも、諸先輩のこれまでの研究の足取りを調べてみよう。

山崎広道/法学部①「選択可能な未来」(高木善之著 PHP研究所) 環境を破壊したのも人間なら、それを止めるのも人間。未来は変えられる。そのためには未来を知ることが増えること。この本を通して未来を知ろう。②「租税法」(金子宏著 弘文堂) 租税法全般について、わが国で最も体系的に記述されている学術書。